

ちょっと気になる？海外ベンチャー・スタートアップ企業の動向

森分 勇人

ここ十数年、研究成果の事業化・実用化を目指す大学発ベンチャー・スタートアップの立ち上げが世界中で活発化している。

日本国内では、2001年5月、当時の内閣に設置された産業構造改革・雇用対策本部会合において打ち出された「大学発ベンチャー1000社計画」を受け、さまざまな支援が実施されてきた。経済産業省では、2002年より大学発ベンチャーに関する基礎調査を実施しており、調査結果は報告書として経済産業省のホームページに公開されている¹⁾。

2017年度の調査報告書によると、国内の大学発ベンチャーとして確認できた企業数は、2093社であった。そのうち「バイオ・ヘルスケア・医療機器」に区別されるベンチャー企業は659社であり、他分野を抑えてトップに立っていた。

販路に関するアンケート調査結果では、日本国外への販路拡大を視野に入れている大学発ベンチャーの割合は73.9%にも上った。やはり、夢と市場は大きくということであろう。

海外への販路拡大に向けて気になることといえば、海

外でどのようなベンチャー・スタートアップ企業が評価されているのかである。そこで本稿では、世界最大級のバイオ分野のビジネスマッチングイベントで評価されたベンチャー・スタートアップ企業のシーズ・キーワードを紹介したい。

2018年6月4日～7日、米国・ボストンにおいて、バイオテクノロジー分野における世界最大規模の業界団体 BIO (Biotechnology Innovation Organization) が主催するビジネスマッチングイベント「2018 BIO International Convention」(以下、「BIO 2018」とする)が開催された²⁾。BIO 2018では世界67か国から、製薬、ヘルスケア、工業、環境など多岐にわたるバイオ分野の関係者18,289名が参加し、会期の4日間を通じて46,916件の商談が行われた。この商談件数は、「世界最多の商談数を誇るビジネスマッチングイベント」として、ギネス世界記録の認定を受けた。

ギネスにも認定されたBIO 2018では、ベンチャー・スタートアップ企業が6分間で自社をアピールし、投資家などから評価を受けるセッション「Start-Up Stadium」が設けられた。同セッションの最優秀賞に選ばれた企業は、業界団体BIOの1年間の会員資格、ベンチャーキャピタル会社との1時間のアドバイザーディスカッションの権利などが与えられる。数あるライバル企業を抑え、約50社の中から最優秀賞に選ばれた6社について、その企業名およびシーズ・キーワードを表1に示す。

惜しくも受賞できなかった企業としても、投資家からフィードバックを得ることができ、また潜在的なパートナーに対してアピールができた貴重な場になったと思われる。

現在すでにベンチャー企業を立ち上げた方、またこれから検討されている方は、ぜひ日本国内だけではなく、海外の動向にもアンテナを張ってみてはいかがであろう。

- 1) 経済産業省：平成29年度産業技術調査事業（大学発ベンチャー・研究シーズ実態等調査）報告書
- 2) BIO International Convention: <https://convention.bio.org/> (2019/04/10).

表1. 最優秀賞に選ばれた6社

企業名	シーズ・キーワード
Strand Therapeutics (米国)	mRNA医薬関連。治療用タンパク質の遺伝子とその発現を制御する一本鎖RNAをデザイン。がん免疫療法への適応を目指す。
Lauren Sciences LLC (米国)	非侵襲的な脳内への標的薬物送達技術を開発。中枢神経系疾患への治療応用を目指す。
Monarch Biosciences, Inc. (米国)	細胞治療関連。腫瘍に対して、高密度細胞の直接送達を可能にする薄膜生体材料を開発。
OcuMedics, Inc. (米国)	薬物溶出コンタクトレンズの開発。コンタクトには抗炎症剤や抗生物質などの薬剤が添加可能であり、眼科手術後の合併症を防ぐ。
Lumme Inc. (米国)	ウェアブル末端のセンサーを使用して、アルコール依存症などの治療をサポート。
Deep Health (米国)	医療専門家の知見を機械学習させ、画像診断時にがんの早期発見を目指す。